

## 京都・がんと生殖医療ネットワーク（KOF-net）発足についてのお知らせ

2017年6月21日、京都府における小児、若年がん患者の妊孕能温存に向けた取り組みとして、京都・がんと生殖医療ネットワーク（Kyoto OncoFertility network:KOF-net）が発足しました。

抗がん剤治療および放射線治療などの医療の進歩によって、以前は治癒が困難とされていたがんでも治癒が見込めるようになった一方で、このような治療の内容によって卵巣機能が廃絶し、がん治癒後に不妊となる可能性があります。こうした可能性に備え、卵巣機能を温存するための方法として、不妊治療で培われた体外受精の技術を応用し、がん治療開始前、もしくは治療と治療の間に男性では精子凍結保存、また女性であれば未受精卵子や卵巣組織を凍結して保存しておく医療、がん生殖医療（OncoFertility）があります。

こうしたがん生殖医療においては、患者の方々が原疾患の診断から治療開始前までの限られた時間の中でいかに正確な情報を得て、いかにスピーディーに生殖医療を受けられるかが重要です。しかしこれまでは、がん生殖医療に対する情報の不足、およびシステムが整っていないことから、がん治療を行なう医療者と生殖医療を行なう医療者との連携がかならずしも容易ではありませんでした。KOF-netは事務局を京都大学医学部附属病院産科婦人科内におき、京大病院がんセンター内に専用の窓口を設け、がん治療を担当する医療者の方々や患者の方々からの問い合わせに対して生殖医療施設の紹介やがん・生殖医療を専門とする医師による患者への説明を行っています。さらにホームページという方法を持ちいて、京都府内における賛同施設情報やがん生殖医療に関するイベント情報等を発信し、この診療に携わる医療者や患者の方々にがん生殖医療に対する正しい知識を得てもらい、患者を中心として円滑に将来妊娠できる力（妊孕能）の温存が行なえる体制を構築していくことを計画しています。がん治療を乗り越えたあとに妊娠する可能性を残せることは、患者にとっては希望の

光となります。若くしてがんを患った患者の方々およびそのご家族に、このネットワークを通じて相談できる医療施設の存在を知ってもらうことで、1人でも多くの小児、若年がん患者の未来に寄与することが出来ればと願っています。

